

# 国立科学博物館サイエンスコミュニケーター養成実践講座 サイエンスコミュニケーション1 (SC1)

～理論と実践の対話型カリキュラム～

サイエンスコミュニケーションとは？サイエンスとは？といった考え方をはじめ、メディア・研究機関・大学・博物館など、各機関・分野で活躍している講師から実践を踏まえた理論を学習します。

また、様々な人々に科学を伝える際に効果的なプレゼンテーションの方法について学びます。

応募〆切  
2023年  
5月9日(火)  
正午

## 講座概要

【主催】 国立科学博物館

【対象】 大学院生※、博物館職員等社会人

【方法】 オンライン形式および対面形式

【期間】 令和5年6月～8月

【コマ数】 30 コマ

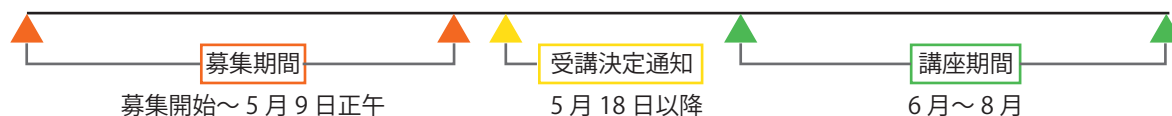
【定員】 18名程度

【受講料】 63,000円（大学パートナーシップの学生は31,500円）  
→<https://www.kahaku.go.jp/learning/university/partnership/enroll.php>  
※ 当館大学パートナーシップ入会大学の大学院生を優先させていただきます。

【応募方法】 「サイエンスコミュニケーション1 (SC1)」のみの募集となります。  
本講座のHPをご確認いただき、Gmailにて、必要事項をお送りください。  
→ <https://www.kahaku.go.jp/learning/university/partnership/sc/sc.php>  
宛先：SC講座担当 [sc@kahaku.go.jp](mailto:sc@kahaku.go.jp)  
なお、応募に際し記載いただく事項が多くありますので、余裕を持ったご準備をお願いいたします。

【注意事項】 ・社会情勢、講師の都合、自然災害等により、やむを得ず、講座の全部または一部を中止したり、講座内容や配信期間等を変更したりする可能性があります。  
・本講座HPに掲載している応募に係る注意事項をお読みいただき、記載事項についてご承諾の上、ご応募ください。  
・講座の詳細につきましては、本講座HPをご確認ください。

## 受講までの流れ



# 令和5年度 国立科学博物館サイエンスコミュニケーター養成実践講座 「サイエンスコミュニケーション1(SC1)」

## 授業科目一覧・スケジュール

- 令和5年度の「国立科学博物館サイエンスコミュニケーター養成実践講座」は、対面形式及びオンライン形式を組み合わせた形で実施いたします。
- 講座は、主に講義と課題研究から構成されています。

講義	サイエンスコミュニケーションに関する理論を学ぶ授業です。担当講師は各分野の第一線や現場で活躍されている方々です。授業形態は、6月10日の3コマをのぞいて ・オンデマンド型授業(60分)＋同時双方向型授業(60分) ※オンデマンド授業は同時双方向型授業実施日の1週間前から配信予定 ・同時双方向型授業(90分) の2種類からなり、講義では、それぞれの事前・事後課題も含めて深く学びます。
課題研究	一般の方に向け、自分自身の研究や専門分野について発表するための授業です。担当講師は当館研究者・職員です。発表日(8月8日及び9日)に向けて、講師や他の受講者との議論を重ねながら「ディスカバリートーク」を作り上げていきます。ディスカバリートーク…土・日・祝日に当館の研究者が交代で、展示物についての話や研究者自身の研究内容などについて、来館者に直接解説するイベントです。(https://www.kahaku.go.jp/learning/event/d_talk/index.html)

※赤枠6月10日、11日・8月8日、9日の授業は必ず参加していただく必要があります。

### <講義>

同時双方向授業 実施日程	講義名	授業形態	氏名	所属	概要
6月6日(火) 15:00~17:00	開講式 オリエンテーション	オンライン	当館職員	国立科学博物館 事業推進部学習課	本講座を受講するに当たって、授業方法や評価などについての説明を行います。
6月10日(土) 10:00~11:30	サイエンスコミュニケーションという考え方、背景及び目的 ※1	対面	渡辺 政隆	日本サイエンスコミュニケーション協会 会長 同志社大学 特別客員教授	サイエンスコミュニケーションとは何か、何を目指すのかを、時代背景を振り返りながら論じ合います。
6月10日(土) 13:30~15:00	博物館の機能とサイエンスコミュニケーション ※1	対面	小川 義和	埼玉県立川の博物館 館長 立正大学 教授	資料の収集保管、調査研究、展示や学習支援活動等の博物館の機能と博物館の資源を活用したサイエンスコミュニケーションについて学びます。
6月10日(土) 15:30~17:00	博物館における 科学リテラシー涵養活動	対面	有田 寛之	国立科学博物館 科学系博物館イノベーションセンター長	科学系博物館の学習支援事業を国立科学博物館を例に紹介しながら、国立科学博物館の展示・学習支援事業の目的である科学リテラシー涵養活動について学びます。
6月12日(月) 17:30~18:30	著作権制度の概要と 他人の著作物を利用する際の注意点	オンライン	檀上 容子	国立科学博物館 広報・運営戦略課長	講座やイベント企画書などで他人の著作物(文献や画像、映像など)を利用する際の注意点を学びます。
6月22日(木) 17:30~19:00	文化としての科学技術	オンライン	岡本 拓司	東京大学大学院 総合文化研究科 教授	知識としての科学の特徴、その技術との関わり、科学が形成されてきた歴史的な過程などについて、参加して下さる方々のご経験やご意見を伺いながら議論します。
6月30日(金) 17:30~18:30	調査・研究活動と展示	オンライン	矢部 淳	国立科学博物館 地学研究部 研究主幹	国立科学博物館の地学研究部の事例を参考に、博物館における調査・研究活動と展示との関わりについて紹介します。
7月4日(火) 17:30~19:00	これからの学校教育で 求められる学び	オンライン	清原 洋一	秀明大学 学校教師学部 教授 秀明大学教育研究所 顧問	初等中等教育段階における理科教育の現状や、学習指導要領の改訂(育成すべき資質・能力、カリキュラムマネジメント、主体的・対話的で深い学び)など、初等中等教育段階における教育改革について理科教育の視点から考えます。
7月7日(金) 17:30~19:00	サイエンス・ライティング II ※1	オンライン	渡辺 政隆	日本サイエンスコミュニケーション協会 会長 同志社大学 特別客員教授	実践的サイエンス・ライティングのみならず、そもそもサイエンス・ライティングとは何かも含めて議論します。 ※「サイエンス・ライティング I」はオンデマンド型授業(90分)となります。
7月11日(火) 17:30~18:30	メディアに見るサイエンス コミュニケーションの実際:出版編	オンライン	松原 由幸	株式会社 Gakken K12 事業部 図鑑・科学編集課	学習図鑑の実例を紹介しながら、子ども向けの市販商品におけるサイエンスコミュニケーションについて理解を深めます。
7月14日(金) 17:30~18:30	地域コミュニティにおける 科学館の活動	オンライン	代島 慶一	静岡科学館 事業担当長・主査	科学館における事例を紹介しながら、地域でできる科学コミュニケーション活動について考えます。
7月20日(木) 17:30~18:30	メディアに見るサイエンス コミュニケーションの実際:テレビ・ウェブ編	オンライン	大石 寛人	日本放送協会(NHK) メディア総局 番組ディレクター/デジタル担当	映像やデジタルコンテンツで「科学する」ために大事なことって?? 現場での実践例を交えながら、みんなで考えることができれと思っています!
7月26日(水) 17:30~18:30	研究機関における サイエンスコミュニケーションの実際	オンライン	相馬 央令子	宇宙航空研究開発機構(JAXA) 研究開発員	研究・開発の場面での実例を紹介しながら、研究機関の研究者に求められる機関内外とのサイエンスコミュニケーションについて理解を深めます。

※1 令和2年度「科博オンライン・セミナー～サイエンスコミュニケーション編～」(令和2年9月～11月実施)の修了者は、申請によりすでに受講済みの授業とみなすことができます。

## <課題研究>

6月11日(日) 13:30~17:00	課題研究(計16コマ) ※2	対面	当館研究者・ 職員	国立科学博物館	「課題研究」では、一般の方を対象に、受講者が「ディスカバリートーク」を行うことを最終目標としています。当館研究者による事例を参考に、自らの研究・専門分野についての発表を準備します。多様な専門分野の受講者同士が議論しながら「ディスカバリートーク」を作り上げます。
7月2日(日) 13:30~17:00		対面または オンライン			
7月16日(日) 13:30~17:00		対面または オンライン			
7月24日(月) 17:00~18:30		対面または オンライン			
7月31日(月) 10:00~17:00		対面または オンライン			
8月8日(火) 10:00~17:00		対面			
8月9日(水) 10:00~17:00		対面			
8月17日(木) 13:30~17:00		対面または オンライン			

状況により、授業の実施日程等の変更や、講義の中止等の可能性がございます。

※2 各日程に記載されている時間は、開始と終了の予定時間であり、適宜休憩時間が設定されています。